



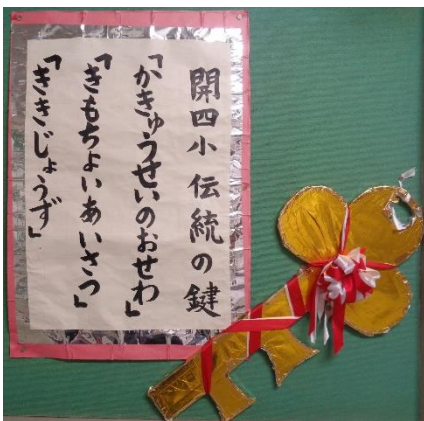
令和6年4月30日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 関川 健

開四小だより

5月号

開四小伝統の鍵

校長 関川 健



本校には「開四小伝統の鍵」というものがあり、毎年1年生を迎える会の際には6年生の代表委員から紹介され、全校児童の中に浸透させ続けています。そして、6年生を送る会の中では、6年生の代表委員から5年生の代表委員へとそれを引き継ぐセレモニーを行っています。

私が本校に着任して1年と少しが経ちましたが、子供たちはこの「伝統の鍵」をしっかり意識して学校生活を送っていると感じています。「下級生のお世話」に関しては、今は年度当初なので、6年生が1年生と積極的に関わり、昇

降口でのあいさつや教室での支度の手伝い、声掛け、見守りなどを笑顔で行っています。校門を入った所から進めなくなってしまった1年生を見かけると、優しく声をかけて一緒に昇降口まで歩いてくれる子がいました。昨年度のなかよし班（縦割り班）活動の様子を見ていると、上級生が下級生にとっても優しく接していました。「聞き上手」に関しては、様々な場面で、話を聞くときには話し手の目を見て聞く、うなずくなどの反応を見せることを意識している子が多いです。

特筆すべきは「気持ち良いあいさつ」です。毎朝校門で登校してくる子供たちを迎えますが、立ち止まってお辞儀をしてあいさつしてくれる子がたくさんいます。マナー講座で聞いた話によれば、これは相当丁寧なあいさつの仕方です。朝は元気よく「おはようございます」と笑顔であいさつしながら校門をくぐってくれば十分だと思います。しかし、立ち止まってお辞儀をしてくれると、こちらもしっかり気を付けの姿勢でお辞儀をしてあいさつを返したくなります。その時はとても清々しい心境になります。多くの子供たちがこの行動ができる学校はそうあるものではないと思いますし、一朝一夕で身に付いたものでもないはずですが、周りの上級生が行っている姿を下級生が見て、自然と同じことをするようになり、それが受け継がれているのだと思います。子供たち同士が築き上げていく学校の校風の素晴らしさと大切さは、私たち教職員が子供たちにその価値を伝えていきます。

「開四小伝統の鍵」は、いつも相手意識をもち、相手を尊重する心と態度を育み、社会生活で欠かせないコミュニケーション力を身に付ける源だと感じています。伝統の鍵の実践で身に付けた力を、学校以外の場面でも発揮できる子供たちに育ててほしいと思います。